

第12回地質調査所研究講演会 「地質情報とこれからの社会」を終えて

有田 正史¹⁾・谷田部信郎²⁾・吉田 朋弘²⁾

1. はじめに

平成9年6月13日,三会堂ビル石垣記念ホール(東京)で,地質調査所と(財)日本産業技術振興協会の主催により,上記講演会が開催されました。参加者は227名を数え,総合討論等では様々な意見交換が行われました。

また,ご提出いただいたアンケートでは,多数の貴重なご意見を頂戴することができました。

2. 企画主旨

地質調査所では,長年にわたって地球に関する調査・研究を実施し,多くの地質情報を蓄積してきました。また,これらの地質情報の管理や流通について,グローバル化・情報化の動きに合わせて,より効果的な方法を模索してきました。この講演会は,これらの地質情報の蓄積・管理・流通の現状と将来について,社会との関連に重点をおいて,これまで地質情報に接する機会の少なかった方々にも,地質情報の社会的な意味や利用方法などについて,分かり易く紹介するために企画されました。

3. 講演内容

イントロダクション

これからの社会における地質情報の蓄積と流通

地質調査所 地質情報センター長 花岡 尚之
インターネットや携帯電話にみられるように,情報通信サービスが大幅に変化しており,これに対応して地質情報の形式も変化し,その蓄積と流通のあり方が講演されました。

将来に備えた海洋地質情報の整備

地質調査所 海洋地質部長 中尾 征三
地質調査所が,昭和40年代から取得してきた海洋地質情報を,三つの分野(地球物理,地質,堆積・岩石)に分けて整備し,将来の海洋地質情報の有効利用に貢献する試みが報告されました。

生活基盤としての地質情報

地質調査所 地質部長 久保 和也
限られた分野の方々には知られていなかった地質図を,基礎的な知識,利用技術,地質図作成の現状と今後の計画等を踏まえ,地質図と言うものに接する機会の無かった方々を対象に紹介されました。

土木と地質の接点

建設省 土木研究所地質官 神尾 重雄
土木や建設の分野で地質技術者がどのような役割を果たしているのか,建設プロジェクトで行われる地質調査の内容や特徴を紹介するとともに,最近の公共工事コストの縮減対策に関連して今後の地質調査のあり方が提案されました。

生活を守るための地質環境情報

地質調査所 環境地質部長 小出 仁
地質情報が,社会において果たすべき役割の1つに,我々の生活すなわち生命と財産を守ることが挙げられます。地震・火山・マスマーブメントの災害等のための地質情報の役割が講演されました。

生活を維持するための地質資源情報

地質調査所 鉱物資源部長 中嶋 輝允
地球がもたらす鉱物・エネルギー資源によって,現代日本人は豊かな生活を過ごしています。資源小国である日本の地質・資源情報の現状と将来について講演が行われました。

1) 地質調査所 統括研究調査官

2) 地質調査所 総務部

これからの電子地質情報のあり方

日本福祉大学教授 野呂 春文

これからの社会において地質情報が有効に利用されるための基本的な戦略・方策は何か。その中で地質調査所が果たすべき役割はなにか。社会地質図データベースやGIS等をキーワードにして長年の考察の一端が提言されました。

この他に、ポスターセッションとして15項目の発表があり、活発な意見交換が行われました。

4. 参加者から地質調査所に対するご意見

参加者227人の内44人の方々からご意見が寄せられました。回収率は例年に比べ少ないのですが、逆に貴重なご意見を多数頂きました。その一部を紹介いたします。

《講演会の感想》

- ・地質情報を、世間一般に広く公開する必要性を感じました。
- ・「これからの社会」というテーマが良かったと思います。ただ“社会のため”の、つっこんだ取り組みが弱く感じた。
- ・地調の、各分野での地質情報のあらましと、考え方が分かって有意義だった。図幅のお話面白かった。
- ・準備が大変であったと思いますが、もう少し整理された解りやすい発表であったなら、さらに良かったと思います。
- ・現在の概要といった発表に止まるものが多く、これから何を指すのかといった先を見据えた試みについて、検討中のものを含めて教えていただきたいかった。
- ・地質情報の生かし方について、もっと具体的な内容の話の聞きたかった。
- ・スライドビューグラフが見にくい。研究成果の普及が目的なので見易いビューグラフを作ることが重要だと思います。
- ・講演数をやや絞って、討論(パネル的ディスカッション)を結合してテーマを掘り下げる。ポスターセッションで、参考になるものが少なからずあった。

《今後、地質調査所に何を期待されますか》

- ・地質DBは基本的に変化の少ない分野なので、CD-ROM等で安価に市販していただきたい。
- ・国内的にも国際的にも、「地質」について代表できる機関であってほしい。
- ・地質図幅5万分の1の全国カバー。
- ・各種研究所、大学、海上保安庁水路部等、他の機関と重複して実施されている調査は、なるべく相互に連携して効果的に進めて欲しい。現状では、研究成果の情報が一元化されていないため、我々民間は情報入手に手間がかかって仕方ない。インターネットでの情報公開もどんどん進めて欲しい。
- ・法令をつくる。地質情報の統一管理(他国の機関や民間データ)と公開。
- ・やはり、大災害予防のための地質情報を早く正確にを目標に。

今回のアンケートは、例年とは質問事項を若干変更して、皆様のご意見を書いてもらう欄を多くしました。参加者の皆様の忌憚りの無いご意見を頂きまして、心より感謝すると同時に、今後の地質調査所の普及活動に反映させていただきたいと思っております。また、一部のご意見しか掲載できなかったことをお詫びいたします。

5. その他のアンケート結果

- ・地質調査所の研究成果の利用について
地質図(38)、地質ニュース(38)、研究報告書(33)、研究発表会(25)、学会・学会誌等における所員の発表(24)、地質標本館の利用(21)、地質文献目録の利用(18)、GEOLISの利用(11)、地質相談所(6)。
- ・今後の希望する講演会テーマについて
《分野》応用地質(32)、自然災害(21)、地質一般(17)、地球環境(16)、資源(8)、海洋開発(6)、その他の意見を多数頂きました。
- 《内容》探査技術(20)、評価(21)、調査法(17)、データベース(14)、分析技術(8)、成因(8)、実験(1)、その他の意見を多数頂きました。